



追悼

柏木昭先生、感謝を込めて

相川 章子
聖学院大学

2023年12月30日、いつもくつろがれていたご自宅のソファで眠るように天国に召されました。水色の爽やかなシャツにチノパンに紺ブレ、先生のお決まりのスタイル。おしゃれで紳士的なお姿は亡くなられるまで変わることがありませんでした。

私が柏木先生に初めてお会いしたのは大学卒業後、国立精神・神経センター精神保健研究所研究生として働き始めた折でした。その翌年、淑徳大学大学院修士課程に進み、柏木先生にご指導いただいてから幸運にも30年あまり、先生のもとで、実践者として、教育者として、研究者として、そして人として多くを学ばせていただきました。

柏木先生は旧制中学5年で海軍兵学校に入校され、特攻隊員として我が身を犠牲にすることを厭わない覚悟でおられた3年生（18歳）の1945年8月15日、終戦の詔勅が発せられたのでした。その後、25歳で就職された横須賀基督教社会館で、当時の館長であったエヴェレット・トムソン宣教師と出会ったことをきっかけに、ボストン大学・スクール・オブ・ソーシャルワークに留学されました。アメリカへ向かう時の母親との泣きの涙でお別れをしたこと、船の同室だった青年の通訳をされたこと、アメリカの地におりたったときに荷物をもってあげた婦人に温かいアップルパイに冷たいアイスクリームが添えられたパイアラモードをご馳走になったエピソード、実習やキャンプに参加したことや日夜、友人にノートを貸してもらい勉強したことなど、楽しく聞かせていただきました。¹

アメリカで学ばれたソーシャルワークの実践哲学のなかでも、とりわけ「自己決定」にこだわり続けられました。柏木先生が初めて「クライアントの自己決定」を論じたのは、1958年雑誌「社会事業」です。²今でこそ「自己決定」は、倫理綱領にも掲げられ、ソーシャルワーカーとして疑う余地のない当たり前の原理原則となっていますが、ここに至るまでに社会福祉の領域からも、また精神医学の領域からも多くの批判を受けてこられました。しかしながら決して揺らぐことなく、怯むことなく、確固たる信念として伝え続けられました。

それは、精研デイケアをはじめ、地域におけるトポスとしての「けやき亭」（就労継続支援B型、初代理事長）での精神障害の方とのかかわり、実践に基づかれた理論であったのだらうと思います。

また、自己決定を静態的権利論としてではなく、「かかわり」という力動的な関係性のなかで生み出されるものとして、「かかわり論」を常に展開しておられました。

2020年2月に聖学院大学にて初めて柏木先生と対談講演をさせていただきました。そのときの講演内容等を書籍化することとなり、その打ち合わせで、編集担当者と先生のご自宅におうかがいした

¹ 柏木昭：特別講義：私とソーシャルワーク・福祉の役わり・福祉のこころ みんなで参加し共につくる，聖学院大学出版会，60-95，2011。

² 柏木昭：ケースワーク指標としての自己決定原理。雑誌「社会事業」，14(1)；9-16，1958。

のが亡くなられる3週間ほど前でした。このときも、ゲラを前に私たちにクライアントとの協働、「かかわり」と「自己決定」を力強く説いてくださいました。

そのときお渡ししたゲラに赤の入った校正原稿が亡くなられた後、ご自宅にちゃんと置かれていました。まさに生涯現役として、多くのことをその生き様から教えていただきました。

今年5月に召天された奥様と天国で再会され、きっと仲睦まじい会話を楽しまれていらっしゃるのだらうと思います。ご信仰のうちに天国への凱旋をなされたことを思い、そして心からの感謝を込めて筆を置きたいと思います。